



愛知県、少年チームが準優勝！！

第22回文部科学大臣杯争奪 日整全国少年柔道大会
第3回 日整全国少年形競技会
第37回厚生労働大臣旗争奪 日整全国柔道大会

秋晴れとなった10月14日(体育の日)、講道館で今年も日整柔道大会が開催され、少年大会・少年形競技会・会員の大会それぞれに、全国から代表選手が集まり頂点を目指して技を競った。その中で愛知県の少年の大会チームは激戦を勝ち抜いてみごと準優勝に輝いた。

少年大会には、全国48チーム240名の子どもたち(東京2チーム)が参加。9時の開会式後、大道場で4試合場に別れて試合が行われた。

月野義明監督(半田)率いる本県チームは、大将・杉江凌雅(小6)、副将・竹市大祐(小6)、中堅・中東龍人(小5)、次鋒・渡辺樹希(小5)、先鋒・梅屋丞生(小4)の5名が2回戦から出場し、2回戦(対長崎)3-1、3回戦(対京都)2-1、準々決勝(対徳島)4-1、準決勝(対富山)3-1で決勝戦まで勝ち上がった。

決勝戦は連覇を狙う茨城県との対戦となった。先鋒は大きな相手に善戦し引き分けるも、次鋒が払腰から袈裟固の合わせ一本負け、中堅も横四方固で一本負け。続く副将が引き分けるも大将は小外刈で有効負けを喫し、0-3で試合を終えた。しかし本県は4年ぶりの栄えある準優勝を手にし、関係者や父兄らが健闘を讃えた。



形競技会は少年大会と同時進行で、国際部道場に15チームが集まって行なわれた。

5名の審判が見つめる厳粛な雰囲気の中、森正仁監督(半田)率いる萩田紗安香(取・小6)・萩田耕市(受・小5)の姉弟ペアは3番目に出場。昨年の優勝県である重圧もあってか、やや硬さがあったことと、どのチームもレベルが上がったこともあって、入賞を逃し涙を飲んだ。

会員の大会は午後2時から大道場で行なわれた。

16チームによるトーナメント戦が行われ、本会は東海東部として静岡県との混成チームで、監督・春日井和幸5段(柔道部長)と大将・石田雅明七段(鶴舞)、中堅・石黒貴彦参段(岡崎)、先鋒・浅井友哉参段(一宮)の3選手が出場。初戦の南関東チームに、先鋒・副将・大将が引き分けるも、次鋒・中堅が力と力のぶつかり合いの末、有効を取られ優勢負けを喫して0対2で惜しくも敗退。一昨年3位、昨年2位、今年

は優勝の期待が寄せられたが、残念ながら夢は果たせなかった。しかし日々稽古を積んで真剣に戦った選手たちに、駆け付けた応援者ら16名からは健闘とねぎらいの声が送られた。

決勝戦の前には形の演武が行われ、本会からは日整形講習会で選出された以下の4名が見事な技を披露した。

固の形 夫馬喜久治六段(取)、春日井和幸五段(受)
柔の形 相羽秀昭五段(取)、森正仁六段(受)

また、選手・形演武者として5回出場の榎本好根会員(大曾根)が功労表彰を、日整形講習会5回参加に対し春日井和幸・森正仁・中村太会員が表彰を受けた。

【大会結果】

少年柔道大会 優勝 茨城 準優勝 愛知 第3位 岐阜・富山
優秀選手賞 竹市大祐
少年形競技会 優勝 東京 準優勝 岡山 第3位 福井 第4位 三重
会員柔道大会 優勝 近畿 準優勝 東京 第3位 北信越西部A・B



本会4選手の形の演武

Welcome!!

新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
中村宗成	S48.1.31	中村	米田柔整	初段	ランニング



”成功者の条件は挑戦すること”

平成25年度 日整学術講習会・生涯学習講習会



10月13日(日)正午から、日整学術講習会・生涯学習講習会が開催され、本会役員ら9名が参加した。

特別講演として、元プロ野球選手・監督の山本一義氏が、「我が野球人生に思う」と題して、野球を通じて得た人生訓を王・長嶋選手のエピソードを交えながら語られた。「つらい時こそ笑え。消極的思考はテンションを下げる。挑む人には力がついてくる」・“成功者の条件は挑戦すること”・“歳を重ねるとともに友だちが増えていくような積極的な生き方をしろ”など、示唆に富んだお話をされ、最後に「子どもたちは国を支える力。子どもたちがスポーツで故障したとき一日でも早く治してあげてほしい」と我々に依頼をされ講演を結ばれた。

特別講演のほか、この度28番目の学位専攻区分に認められた柔道整復学士の申請方法などについて、大学評価・学位授与機構研究開発部の森利枝先生から説明があり、富山大学寄附講座報告会として同大学大学院・西条寿夫教授からは、「運動と柔道整復後療法～高齢者社会における柔道整復後療法の重要性」と題して、運動が脳に及ぼす効果や柔道整復後療の有効性など科学的検証結果が報告された。



また鹿児島県のボランティア活動が報告され、地域包括ケアシステムの概要について、本会の三谷 誉会員(日整保険部介護対策課)が紹介し、午後5時過ぎ散会となった。

アジアグランドマスターズオープン柔道大会で活躍

9月21日(土)・22日(日)、30歳以上の世界の柔道愛好家が相集い第2回アジアグランドマスターズオープン柔道大会が、国際柔道連盟(IJF)主催で講道館にて開催された。

本会から諸山和美(豊橋)、高塚 剣(一宮)、間瀬吉晃(中村)、相羽秀昭(半田)、加藤彰一・榎本好根・中村 太(大曾根)の7会員が参加。

「五の形」で、7組の出場選手の中で最年少ペアの榎本・中村組が見事に初優勝を飾り、「講道館護身術」でも第3位に入賞した。試合では、加藤会員がM5-81kg級で準優勝、間瀬会員がM4-81kg級で第3位、高塚会員がM2-73kg級で第3位の好成績を残した。

「二人は仕事の後、週四回は春日井市内で稽古を続けた。…始まりの礼から終わりの礼まで集中力を切らさず、何度も形を繰り返した。…今後も形を続けていきたいという二人。中村さんは『形は一見、地味だが柔道の極意が詰まっている。形の素晴らしさを若い世代に伝えたい』と話す。榎本さんも『誰が見ても美しいと思うってもらえる形を目指して練習を続ける』と意気込んでいる。」(中日新聞 10月5日付けより)



介護予防・認定講習会を開催

10月19日(土)・20日(日)の二日間、本県で8回目となる介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師講習会が開催された。

芳賀脩光先生と日整介護対策課の藤田正一先生が今回も講師を務められ、包括ケアシステムやロコモティブシンドローム、サルコペニアなどについても新たに説明された。愛知25名(会員12名)のほか、福岡・山口・岡山・京都など遠方からも参加者があり、総勢72名が長時間の講義を熱心に聴講した。

平成18年4月の第1回から第8回までの全聴講者は本県・他県合わせて、のべ1,189名となった。